



あなたを待っている子どもたちのために

第2回 「一人一人を大切にできる指導のために」

令和4年11月30日（水）発行 仙台市教育委員会 教育センター 若手教員支援室

第2回プレゼミナールを開催しました！

令和4年11月26日（土）仙台市教育センターを会場に令和4年度第2回仙台市教員プレゼミナールを開催しました。今回は、「一人一人を大切にできる指導のために」というテーマで、児童生徒理解について、いじめ・不登校問題について、特別な支援を要する児童生徒への対応について学びました。参加者は、遠隔地在住等によるオンライン参加者を含め58名でした。

1 「児童生徒の理解とは」

児童生徒を理解するための視点や関わり方等について、教育相談課の指導主事が話をしました。児童生徒を理解するための視点には、①身体的能力、学力などの能力の側面、②性格、興味、要求、悩みなどの心理的側面、③交友関係、家庭環境を中心とした環境の側面があること、また、幼児期から児童期、児童期から青年期への、心理と発達に関する専門的な知識も児童生徒を理解する上では、重要な視点になるということ学びました。それから、児童生徒と信頼関係を構築するために大切なこと、望ましい集団づくり・人間関係づくりに大切なこと、学校全体で進める生徒指導において大切なことなどについて学びました。



2 「いじめ・不登校問題に向き合う」

いじめ・不登校問題について、教育相談課の指導主事が話をしました。はじめに、学校生活の中での3つの場面を取り上げ、そこでの児童生徒の行為が、いじめにあたるかどうかについて考えました。続いて、いじめの定義について確認し、いじめの類型（①相手が嫌だと分かっているわざとしたもの、②相手が嫌だと分からなかったが少し考えれば分かるもの、③相手が嫌だと分からなかった、考えても分からないもの）について学びました。特に、無自覚ないじめへの対応についての演習を行い、理解を深めました。不登校問題については、「よい聴き手」になるためのロールプレイを行い、児童生徒の考えや行動をただ単に良い悪いで判断するのではなく、児童生徒に寄り添い、児童生徒の気持ちを分かろうとすることが大切であるということ学びました。また、いじめ対応でも、不登校対応でも組織で判断することが大切であり、そのためにも報告・連絡・相談を怠ってはいけないということを確認しました。



3 「特別な支援を要する児童生徒への対応」

特別な支援を要する児童生徒への対応について、特別支援教育課の指導主事が話をしました。発達障害のある子供の支援においては、「現在できることをさらに伸ばす」、「行動に着目して支援する」といった視点を持つことが大切であるということ学びました。そして、具体的な対応例として、①行きつく先（ゴール）を明確にする、②肯定語を使う、③刺激せずに、自分で静める経験をさせる、④子供の「土俵」に乗る、⑤ルールを確立するといったことなどについて理解を深めました。最後に、参考文献の紹介や、教師をしてよかったことについての指導主事の経験談も語られました。



<当日の会場の一場面>



～オンライン参加者～



～話し合いの発表の様子～



～講話・演習後、熱心に講師に質問する姿～



<受講者の声>

- 今回はいじめの問題や児童理解に関して、支援を必要としている生徒への対応などを学びました。ロールプレイ形式も多く、楽しく学ぶことができました。実際に自分が生徒側の視点に立って体験すると、今まで感じることもなかった生徒の苦労や感じ方を知ることができて良い学びにつながりました。
- 様々な子どもたちとの向き合い方や、指導の仕方等が勉強になりました。特に、無自覚ないじめについての対応事例が印象的でした。児童の訴えを共感的に受け止めつつ、親切心からの行動であったと伝えるといった指導の大切さを学ぶことができました。今回学んだことをよく振り返り、実際の学校現場でも指導できるようにしたいです。
- 教員を務めるにあたって覚えておきたいさまざまな情報を知ることができました。特にシチュエーションごとの子どもへの対応の仕方は、実際に教職に就かれた方でないといけない内容だったので、今回の講座をもって理解を深めることができてよかったです。
- ロールプレイングや体験型の学習など非常に興味が湧く講義内容でした。子どもたちへの対応も具体的にイメージすることができ、とても勉強になりました。県外のため、会場にて参加できないのがとても残念でした。ありがとうございました。
- オンラインでは初めて参加しましたが、会場の雰囲気も味わいながら講義の内容を聞いてよかったです。児童生徒理解では、生育歴に着目する視点であったり、特別な支援を必要とする児童生徒への対応では、実際に読み書き等の難しさを体感することができたりと、新たな発見が多くありました。また、宮城県や仙台市の集計データを用いながらの説明がいくつもあり、わかりやすく、児童生徒像をイメージしながら講義を受けることができました。生徒指導提要など勧められた本や資料を読み返したいと思います。
- 2回目から参加しました。講話だけでなく、実際に体験したり考えたりすることで「担任としてどう声をかけるか」「どんなことを大切に子どもを見ていくか」など、考えながら学ぶことができました。また、不登校対応やいじめ対応、その他の対応についても、組織としての対応が大切であるということを強調されていたので、忘れずにいたいと思いました。そのためには、先生方とも風通しのよい関係にいることも大切なのかなと考えます。どんな学校で、どんな先生方と働くことができるのか楽しみにしました。また、初めての参加で緊張していましたが、周囲のみなさんがとても明るく、講義中の話し合いも雰囲気よく行われたので楽しく学ぶことができました。参加してよかったです。ありがとうございました。
- 今回のゼミナールでは、一人一人を大切にする指導ということで、児童生徒理解に関する基本的な考え方についてや、いじめ・不登校問題、特別な支援を必要とする児童生徒に対する対応について知ることができました。これらの内容は大学でも学んできていたものの、より実践に近い形で学ぶことができ、実際に教員になったときに活かしていきたいと感じました。座学的に知っていたことでも、実際にどう対応していかうということは今まで考えることができていなかったと感じたため、今後そういった視点で学びを続けていきたいと感じました。また、今回教員になったときに参考にできるハンドブック等について紹介をいただいたので、そういったものも生かして準備を重ねたいと思います。
- 今回が初めての参加でした。はじめは緊張しましたが、時おり笑いも交えた穏やかな雰囲気や休憩時間に同期とお話できたことで緊張がほぐれました。講話では児童生徒を見る視点を学んだりロールプレイで体験的に学んだり、来年から教壇に立つことを少しだけイメージできた気がします。次回以降も参加し、このイメージを膨らませていけたらいいなと思っています。ありがとうございました。

次回（第3回「魅力ある学級づくりを目指して」）は、12月10日(土)に開催します。